

病理専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに



病理科の専門医は卒後2年間の臨床研修終了後、4年の病理研修（病理診断の実務、学術の実績）ののちに受験資格が得られる病理専門医が主たるものです。日本病理学会の認定する病理専門医受験のためには、病理解剖20体を適切な指導のもとに行うことで得られる死体解剖資格（病理解剖）が必須です。関連した資格としては、臨床検査の専門医、細胞診指導医などがあります。病理分野の特徴

としては、病理学研究との実際上の垣根がなく、博士号取得のための研究をほとんど同期間で行うことが可能な場合があります。キャリアパスのうえでは、専門医と博士号を卒後6年で両方取得するという選択肢があることです。さらに、浜松医科大学は、腫瘍病理学講座（旧病理学第一講座）、再生・感染病理学講座（旧第二病理学講座、岩下寿秀教授）、中央診療施設病理部（馬場聡部長〈兼〉・病院教授）において、病理専門医としての研修を行うことができます。それぞれの指導体制は若干違うものの、前二者は基礎医学講座ではありますが、医局ふうの体裁をとっております。また、共同で、大学病院の実務や県内病院の病理実務をやってきたという伝統があり、人事などの相互乗り入れが今後もあるでしょう。

プログラムリーダー 浜松医科大学医学部腫瘍病理学講座 教授 梶村春彦

2 目的

歴史的にも、現代的にも病理の充実は、CPCなど医療のクオリティコントロールに必須です。県内の主要な病院に、十分な診断能力、高度な学術知識（いわゆるthe doctor's doctor）をもった人材を、適切な世代交代のタイミングになるように配慮しながら、1病院あたり複数名配置し、本県の医療の継続的発展とその科学的基盤の充実をはかることを目的とします。

3 目標

病理解剖、外科病理診断、迅速診断、Clinicopathological conference (CPC)における臨床との討議、Moribidity and Mortality (M & M) Conferenceへの対応などが十分に行えることに加え、近年の生物学とくにヒトゲノム情報の利用可能性についての革新的進歩による個別化医療・遺伝子医療・移植医療・再生医療・これらの多施設共同研究などへの参加・対応、virtual slideなどITの利用、evidence based medicineの基礎としての病理組織のバイオバンキング、patient derived xenograft、spheroid 作成、登録も含めた病気の現状やoutcomeの把握、必要なゲノム解析研究倫理もふくめた医療倫理への理解など、病院の学術的指導に耐えうる人材を養成すること。

解剖資格

<http://www.crc-japan.com/f-medicine/sou/4.html>

をご参照ください。直近の5年間にというのが、よくうっかりするところですので、しかるべき時期にしっかり申請する必要があります。申請の受理などは多少時間がかかることがあるようです。

病理専門医

<http://pathology.or.jp/senmoni/board-certified.html>

そのほか、種々の情報が載っております。

県内の認定施設・登録施設も随時 update されています。

浜松医科大学付属病院は認定施設番号の 4901.

4 特徴

県内の病理実務はかなりの部分が浜松医科大学に関連した人材によって担われております。その関連のしかたは、いわゆる関連病院の他にも浜松医大の医局を経ないで病理の専門家になった卒業生や県出身者、長年県内で活躍し、以下の県内の病理医のcommunityで活躍しているかたなどがおられます。もちろん新規に赴任されてきて活躍しておられるかたも多い。幸運にも、病理医の数が相対的に不足しているので、過当競争がおこらず、非常に仲の良い体制であることが特記すべき点であると思います。また、2011年の概算要求によって、大学にも本格的な過カンファレンス機能のついたvirtual slide (whole slide imaging)が設置され、Kinetic and Interactive Network of Orphan Pathologists (KINO-P)として稼働しつつあり、また各科の利用も増加しています。このNetwork上にある病院は、浜松医科大学研究棟のほか、現在浜松医療センター、聖隷三方原病院、磐田市立病院、浜松労災病院、静岡県立がんセンターであります。徐々に県内東部などとも連携がすすむと思われます。もちろん機能的には世界中でnetworkが可能であり、長崎、広島など関西や、南京やBaselといった都市の病理医とdiscussionもできます。

静岡県病理医学会 (SPS)、静岡県神経病理懇話会、各種臓器別の研究会、静岡がん治療研究会そのほか県内に限らないが、東海骨軟部研究会、東海小児病理研究会、日本病理学会中部支部による地方会、スライドセミナーなどがあります。

県内の主な病理診断科の様子を知る限り述べると、歴史的に第1病理（故喜納勇教授）の関連病院は東側に、第2病理（故白澤春之教授）の関連病院は西側に多くあります。

【腫瘍病理学講座関連施設・教室出身者が部長あるいは科長をしています】

浜松医療センター

聖隷浜松病院

聖隷三方原病院

磐田市立総合病院

浜松労災病院

藤枝市立総合病院

【比較的関連の深い施設・教室出身者が部長の施設】

焼津市立総合病院

富士宮市立病院
浜松赤十字病院
浜松労災病院

【再生・感染病理学講座関連施設】

中東遠総合医療センター
遠州病院 等

県立がんセンターと、県立総合病院には、両講座出身の病理医がそれぞれ複数勤務しています。

5 研修カリキュラム

腫瘍病理学講座関連で研修する場合は、大学院にはいっていただき、磐田市立病院などで研修をすると同時に、学位論文の作成の指導をします。興味によりますが、後半の一定期間は国内研修を勧めます。

http://www.hama-med.ac.jp/uni_education_igakubu_igaku_byouril_shidoutaisei.html
に種々の場合について書きましたので参考にしてください。

現在は、講座単独のJournal Club のほかに、呼吸器外科グループや医療センターの病理医とのカンファレンスがされています。また、看護学科も含む遺伝カウンセラーチームと共同で、消化器外科や内科に受診する遺伝的腫瘍例の共同研究のためのカンファレンスを随時行っています。本講座の大学院卒業生から、遺伝子診療の専門医が生まれ(消化器内科岩泉守哉医師)地域のプライマリケアとの連携もしています。

臨床とのカンファレンスは、私の経験では準備やプレゼンに負担だけ大きいという場合がありますが、臨床との風通しをよくして、業務の円滑化ばかりでなく、機敏な共同研究作業のスタート地点と考えていますので、簡素・短時間かつ少人数で行っています。呼吸器や消化器ばかりでなく、骨軟部、頭頸部、婦人科系、泌尿器科系など種々のものがあり得ると思われ、病理部なども含め種々のarmで行われていく予定です。

6 研修例

前期研修の最後の数ヶ月を、浜松医大病理部や、関連病院病理部で研修をし、そのまま、解剖資格取得レベルまで実務のトレーニングをします。病理専門医にうかるレベルまで2年くらいで(実際には4年が規定)もちあげるという教育ですので、多少やる気が必要です。そうしておくと、そのあと、学術研究を深めるために国内外にいかれるのもよし、専門医をうけてからうごくのもよし、また、県内の病理診断の指導的立場をめざしてさらに修練をつむのもよしという状況です。個別に相談にのります。

7 研修病院群

1) 浜松医科大学医学部附属病院・病理部

指導責任者 馬場聡

具体的には、付属病院病理部の説明をご覧ください。現時点で、後期研修医 1, 臨床助教 2, 助教 1、さらに、適宜両講座からの医師が診断にあたり、充実した体制で、とくに女性

医師の人気の高い部門です。Virtual slide 装置 (Whole slide imaging 装置) が導入されます。

腫瘍病理学講座に所属する場合はそこにも机とパソコンは与えられます

2) 聖隷浜松病院 (総合修練機関)

指導責任者 大月寛郎 (病理診断科部長)

日本病理学会病理専門医、日本病理学会病理専門医研修指導医

日本臨床細胞学会細胞診専門医

特徴としてはとにかく、症例が豊富であること。また、細胞診 (新井義文細胞診断科部長) にも熱心であることが特徴です。



【病院紹介】

当科は 1987 年 (昭和 62 年) 度より日本病理学会認定施設として認定された施設です。最短 4 年間の専門医研修を積み、認定医試験に合格すれば病理認定医資格が取得できます。また、日本細胞学会教育研修施設として認定されており、日本臨床細胞学会専門医も同時に目指すことができます。また、当科は生検・手術症例、細胞診ともに全国の認定病院の中でも屈指の施設です。ちなみに、2010 年度は、外科病理症例 約 17000 件、細胞診 約 46000 件、術中迅速病理診断 677 件、剖検 33 件でした。仕事は多忙ですが、多数の症例があるので、試験資格となる症例数は早期に経験できます。

複数科との検討会は毎週開かれており、オープン CPC は 20 年以上継続して行っています。臨床医とのコミュニケーションの機会は多くあります。興味深い症例も多く資格審査に必要な論文作成や学会発表の機会も十分にあります。また、毎年 11 月に当院は信濃川浜名湖国際病理セミナーを共催しています。これに参加することによってもグローバルなものの考え方にも触れることができます。

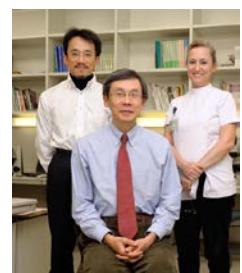
3) 聖隷三方原病院

指導責任者 小川博

病理専門医、病理専門医研修指導医

消化管病理の専門家、婦人科病理の世界的専門家を備えた施設です。

呼吸器の臨床グループとは腫瘍病理学講座と共同研究がすすんでいます。



【病院紹介】

当院は病床数 934 の総合病院で結核療養所として出発した経緯があり、現在も結核、肺癌、縦隔腫瘍などの呼吸器系患者さんが比較的多く受診されています。当科は常勤病理医 2 名、非常勤病理医 2 名、病理コンサルタント (婦人科病理専門) 1 名、臨床検査技師 6 名で診断に当たっています。2011 年は組織診 6,701 件 (うち予防検診センター 1,819 件)、迅速診断 468 件、細胞診 22,301 件 (うち予防検診センター 14,909 件)、迅速細胞診 192 件、病理解剖 19 件でした。症例検討会は CPC 4 回 (各回 2 症例)、消化管生検検討会 14 回、腎生検検討会 12 回、骨髄生検検討会 7 回、研修医のための病理勉強会 4 回が開催されました。総合病院の中の小さな病理部門ですが幅広い症例を勉強することが可能で、病理診断の研鑽に集中できる環境です。

4) 磐田市立総合病院（修練機関）

指導責任者 谷岡書彦

病理専門医、病理専門医研修指導医、臨床検査管理医

症例が豊富なだけでなく、非常に希有な症例が多く、また、tissue microarray, 凍結材料の保存、virtual slide などがそろっていて、大学に準ずる体制ができつつあります。また、2012年4月から、金沢大学の鈴木准教授が赴任し、また、検査医学の担当として嵩真佐子博士が2013年から赴任予定で、いずれの指導者も欧米の一流研究室に留学経験があり、大学並の指導者層になります。谷岡部長の専門は血液病理です。FISHなど分子生物学的方法論は大学のほうから support します。



【病院紹介】

病理常勤医1名(平成24年4月より2名)、非常勤医3名により年間病理診断5000件、細胞診5000件、病理解剖15-20体の病理業務を行っています。研修体制については本院において実際の病理診断業務の研修を行うと同時に、免疫染色、FISH、分子病理学的検査を学ぶことができます。当科は臨床各科とのカンファレンス、病診連携カンファレンス、静岡病理医会、城南静岡病理集談会、日本病理学会中部交見会、日本病理学会などへ症例報告、病理研究報告を積極的におこなっており、研修中に大いに参加していただくようにしています。実験病理に興味のある方には浜松医大腫瘍病理学講座と協力し、高度な病理学的テーマをえらんで実験への参加、研究可能な体制が構築されています。さらに病院勤務をおこないながら博士論文作成可能なシステムに発展させていく予定です。

近年では、浜松医大腫瘍病理学講座、浜松ホトニクスと協力し、ヴァーチャルスライド技術をつかったテレパソロジー、病理疾患データベース構築について実験、施行をおこなっており、今後の技術発展について積極的に参加が可能です。

来年度よりは常勤医も2名となり、ますます指導内容の充実が図られます。病理医希望の専門医諸君にぜひ当院での研修をお勧めしたい。

5) 浜松医療センター

指導責任者 小澤享史

浜松医科大学と関連の深い施設。腫瘍病理学教室とは呼吸器疾患の小規模カンファレンスを行っている。

【病院紹介】

病理専門医 常勤 2名

2014年 実績

組織診 7,050件 うち迅速 229件

細胞診 8,139件 剖検 13件

その他 消化器、乳腺、呼吸器、婦人科、形成、細胞診などのカンファレンスが定期的に行われている。また、固形腫瘍のバイオバンクかがすすんでいて、virtual slideも運用中である。2015年度から後期研修医（社会人大学院生、浜松医大腫瘍病理）を採用予定

6) 藤枝市立総合病院

指導責任者 甲田賢治

故喜納勇教授の最初の大学院卒業生。専門は胃の病理

2012年から非常勤医師が徐々に増えており、さらに2013年にも増える予定で、指導体制の向上を目指します。

7) 浜松赤十字病院

指導責任者 安見和彦（病理科部長）

日本病理学会病理専門医研修指導医、

日本病理学会病理専門医



【病院紹介】

病理専門医 常勤1名 非常勤1名（0.5/week）

《2014年実績》

組織診	3,541件
うち迅速	77件
細胞診	4,660件
剖検	4件
剖検例CPC	3回
外科症例検討会	45回（週1回）

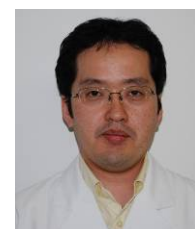
8) 中東遠総合医療センター

指導責任者 新村祐一郎

日本病理学会病理専門医研修指導医、

日本病理学会病理専門医

日本臨床細胞学会細胞診専門医



【病院紹介】

当院は、地域医療を担う中核病院で、平成25年5月1日に掛川市立総合病院と袋井市立袋井市民病院が統合し、開院した新病院です。掛川市立総合病院の年間の生検と手術材料数は約2500件、細胞診は約6500件、病理解剖は約10件で、一般的な外科病理について幅広く経験することが可能でしたが、新病院では検体数の増加が予想されるため、さらに充実した研修が可能になります。現在常勤病理医がいなくなり、再生・感染病理、浜松医科大学病院病理部のスタッフがほとんど毎日診断を担当しています。

9) 焼津市立総合病院

研修責任者 久力 権

日本病理学会病理専門医

病理専門医研修指導医

日本臨床細胞学会細胞診専門医

臨床研修協議会臨床研修プログラム責任者講習修了

【病院紹介】

当院は約 500 床の総合病院で、主に人口 15 万人の焼津市医療圏を担当しています。当院が置かれている志太榛原地区(静岡県中西部)は約 50 万人の人口を有し、4 つの総合病院がそれぞれの市を担当するとともに機能を補完しあう関係にあります。いずれの病院でも扱う消化器、呼吸器などの疾患に加えて、当院には約 50 万人の医療圏の産婦人科、周産期、脳神経疾患の多くが集中します。

病理診断科研修としては、一般的な消化器、呼吸器、皮膚、血液疾患の病理診断に加え、特に産婦人科、周産期、脳神経疾患においては地方の一県に相当する人口圏に起こりうる多様な疾病、病態を経験します。

また、魚の美味しい港町で、外国出身の住民が少なくないこともあって、日本では稀な(でも有名な)感染症をはじめとする様々な疾患も経験する機会があります。

病理診断科研修責任者が、初期臨床研修指導室室長を兼務しているのも当院の特徴です。病理診断科は診断依頼/報告といったコンサルテーション、カンファレンスを通じて各診療科とのつながりが深く、さらに症例の院内分布も俯瞰できる立場にあるため、診療科の枠を超えた若手医師育成に深く関与できるからです。

当院には、約 30 名弱の初期臨床研修医が在籍しており、初期研修と後期研修とが効果的に連動した医師育成プログラムを構築しています。特定診療領域だけに偏向することなく、その上で、コンサルタントとしても十分に機能できる専門医の育成が目標です。当院で初期研修を履修していなくても、後期研修では、専門診療科研修でありながら内科系、外科系を問わず希望する関連領域をローテーションすることも可能です(むしろ推奨します)。

9 研修期間

原則2年以上。詳細は各施設で調整可能な部分もあると思われる。

10 プログラム参加の要件

初期臨床研修修了者。

臨床医からの転向も配慮します(磐田市立病院現部長や医療センター元部長はそれぞれ、内科、外科出身)

11 処遇

各病院の規定に従います。

相談先 hsugimur@hama-med.ac.jp 梶村 (すぎむら)
kyon8@juno.ocn.ne.jp 谷岡

12 プログラム終了後の進路

プログラム参加病院での継続雇用、大学院進学など、各人の要望に応えるよう努めます。

13 プログラム運営委員会

プログラムリーダー：梶村春彦(浜松医科大学医学部附属病院)

病院病理部、再生・感染病理主体のプログラムも立ち上がる予定で、複数の選択肢があります。